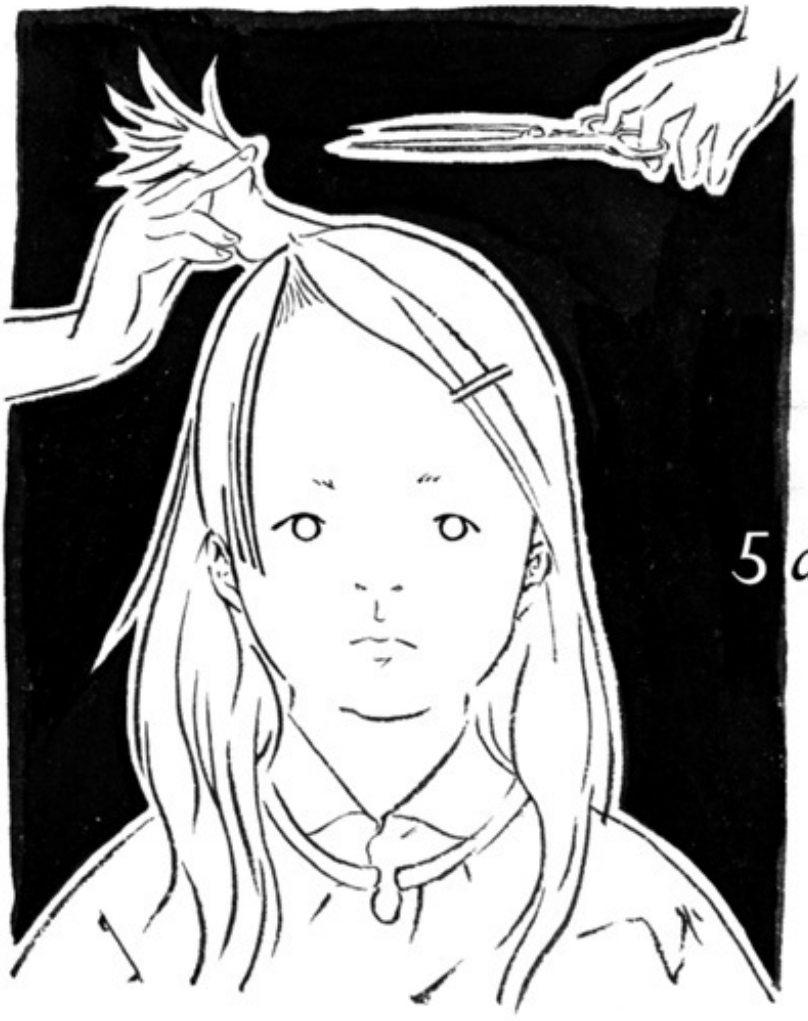

5 days after ...,

いかるが つみき

5 days after ...,

５日後……，

　小さい頃のことなんて、はっきり覚えていないけど、幼稚園の先生のこと。
　私は気が弱いし、今と変わらず小柄だったから、喧嘩をしてもすぐに負けてしまう。でも、自分が正しいときは闘うし、正しくなくても闘うことはある。小さい頃のことだもの、道理に適わず癇癪をおこしていたこともあった筈だ。先生は、そんなとき、しかったりしなかった。優しかった、ううん、優しかったのが善いってことじゃない、ちゃんと私たちの意見を聴いてくれて、一緒になって考えてくれた。なにが善くて、なにが悪いか、結論がでないような問題でもゆっくり時間をかけて、うまくこと葉にできないようなことでも、

私たちとおなじように考えてくれ、考えさせてくれた。

今思えば、どんな喧嘩をしていたのか、どんな問題があったのか、思いだせない。だけど、こんなにもはっきり先生の笑顔が頭に残っているのだから、とっても優しい先生だったんだと思う。

「教育」って聞くと、あの先生を思いだすんだ。

おかあさんに訊いた話

おかあさんは云う「あら、いたのね」

寄り道だけど、云っておく。帰ったとき（だけじゃない、他も）ちゃんと挨拶できないんだ、うちの人って。

おかあさんは云う「なに、浮かない顔」

そんなことない。

おかあさんは云う「そんな仏頂面しておいて」

変なところ気が利くというか、女のカンだとかいうのか、気づいて欲しくないところばかり気づく。

おかあさんは云う「云いにくいことがある？」

いい。別に。もやもやしてこと葉にできないし、云いにくいといえば、そういう意味で云いにくい。

おかあさんは云う「云いたくないことが、ある？」

だから、変な感じになりそうだから、云いたくもない。

おかあさんは云う「いつもそんな感じ。顔と裏腹、善いことも悪いことも、なにも云わないのね」

それは、アナタをシンヨウしてないからデス……

＊

＊　　＊

おかあさんは云う「まさか……、あなた、いじめられてるとかじゃないでしょうね」

ずっと、ずっと、前から思ってること、云わせて貰うよ。

大人たちは、「いじめはいけない」だとか「教育の質の低下」だとか、難しそうに話をする。当然、いじめが悪いっていうのは判るけど、私――Ｋ君にＹ君にＯちゃんのおかあさん、いつも噂話ばっかり、他の同級生のおかあさんのこととか、私たちのこととか、先生たちのこととか、まるで自分たちとは別の生き物みたいに、あれこれ云うじゃない――この前も道ばたで聞いちゃったけど、よっぽどひどいこと云ってる。殴ったりとか、いたずらしたりは、大人はしないんだろうけどさ。でも、こと葉だけっていうのも、怖い。

それにね……おとうさんとおかあさんだっ

て、ずいぶんだと思うけどな。確かに向こうが悪いのかもしれない、ってところは沢山あるけど……おばあちゃんに対して！

おかあさんは云う「やられたらやりかえしなさい」

目には目を。

おかあさんは云う「だって、悔しいじゃない。やられっぱなしなんて」

そういえば、で思いだす、おとうさんとおかあさんがまだ離婚していない頃。だいたい、怒るのはおかあさんだった。喧嘩を始めるのはおかあさんだった。おとうさんだって、やっぱり脳天気だとは思うけど、心の中では結構溜まっていたと思う。でも、どこか我慢して、「黙って聞いてれば善いんだ」って思ってる節がある。それでいいのかな？　でもね……

おかあさんは云う「ナメられたら負けよね」

おかあさんの云うことはいつも正しい。でも、あたり前のことが、すべて善いとは限ら

ないんだ。おかあさんだって、寝坊する。物忘れもひどい。自分のこと棚に上げてって、そうじゃなくて、自分にも厳しくしてるみたいだけど、力を抜くところがあって善い筈。

おかあさんは云う「もっとズケズケいかないと」

おとうさんだって、いつも正しいことばかり云われて、詰められていくんだから、かないっこない。それを判ってる。弱腰、だとは思わない。そういう収め方もあるんだと思う。

おかあさんは云う「あなた、気が小さいんだから」

判ってるじゃない。

おかあさんは云う「かしこくならないと」

かしこくはなりたいと思う。相手も自分も厭にならないような、問題は「云い方」だと思う。どんなに正しくったって、どんなに整理して、どんなに理論的だって、おかあさんみたいに喧々云われたら、苛々してるだけな

のかなって疑(うたぐ)ってしまう。伝わらない以上に別のところで引っ掛かってしまうんだ。

おかあさんは云う「云いたいことは云わないとね」

私だったら、云えない。相手がどう思うか、気になってしまう。絶対に相手が悪いなら云うべきだと思うけど、でも、苦情をまくしたてていれば相手が云うことを聴くって、かしこさってそういうことじゃないでしょう？

おかあさんは云う「世の中、大きい声をだした方が得だわ」

もし、そう思ってやってるなら、私、おかあさんのこと少し嫌いになりそうだな……

*

*　　*

おかあさんは云う「そうだ……だから、携帯、まだ早いからね」

いいよ、別に。確かに持ってる友だちが増えてきたけど……屹度(きっと)、私、そんなに使わな

いし。

おかあさんは云う「ニュースを鵜呑みにする訳じゃないけどね、あんなのはいじめの温床ね」

決めつけるのはよくない。それにおかあさん、健康番組、信用しすぎ。

おかあさんは云う「コミュニケーション・ツールが発達したからといって、世の中、楽しくなんてならないわ。便利になった、っていうのは事実だけど」

考えみたら、私、携帯電話って普通にあったもので、「昔はバッグくらい大きかった」とか云われても、事実は判る。それは、おかあさんが、黒い電話を使ったことがないっていうのとおなじだよね（あるかな？）。でも、携帯電話がない時代って、譬(たと)えばすぐに連絡がとれない感じとか、電話してもほかの誰か、家族とかがでちゃう感じとかって、感覚が判らない。

おかあさんは云う「あなただって、嫌いな子いるでしょう？　コミュニケーションの幅が拡がれば、それだけ知り合いが増えるかもしれない。でも、おなじ比率で嫌いな人も増えるのよ。」

平気で厭なイメージを子どもに植えつけるんだ。それが大人の経験なのかもしれないけどさ、私は子どもだって。子どもだって感覚で、それなりに純粋な積もりで生きてるんだから。

おかあさんは云う「頭の悪い奴も増える……ずるかしこい奴だって増える……」

脅すようなことまで云って、私に携帯持たせたくない訳？　いいよ。それに、そういうのって、結局、「通話料をどっちが払うか」って云いだしたりする。親権のある方が払うべきだとか、否、先に許可した方が払うべきだ、とか、ややこしいこと揉めたりするんだ。

おかあさんは云う「携帯が普及して、さし

ずめ変わったことと云えば、……忙しくなったことね」

いいよ、もう。だから、あんまり使わないんだってば。

おかあさんは云う「あなた……、まさか友だちがいないってことはないわよね」

失礼な。

おとうさんに訊いた話

おとうさんは云う「ああ、携帯にでなかったって？　おかあさん、怒ってたって？」

ずっと不思議な気分。去年の春にうちの親は離婚した。だけど、おかあさんが引っ越した先は隣のマンション。私とおとうさんの住んでいる家から、1分もかからないんだ。携帯かける意味ないよね。

おとうさんは云う「よく忘れてきちゃうん

だよな。あんまり使わないし」

用事があるときとか、なにかにつけておかあさんはこっちの家にくるし、「話がしたんだな」って、あからさまなときもある。おとうさんも気にしてない。別に離婚したからって、仲が悪い訳じゃないし、これじゃあなにも変わらない、家族なんだ。変なの。

おとうさんは云う「携帯していないと携帯の意味がないって？　ああ、云いそうだね」

噂って、噂されている本人の耳にははいらない。はいったら、噂っていうか、悪口だ。屹度私たちも噂されてるんだろうな。

おとうさんは云う「携帯があって、善かったか、悪かったか……」

電話したのは昼間だって。連絡するなら家の電話で、なおいえば、直接くれば早い。それじゃあ駄目なんだろうか？　だとしたら、私には聞かれたくない話とか？　もしかして、外で待ち合わせる積もりだったとか？

おとうさんは云う「「善い」とか「悪い」とか、考え方次第だな。なんでも」

知ってるんだ、携帯。おかあさんの部屋のソファの上。

＊

＊　　＊

人の振りみて、我が振り。云いたいこと云わない、っていうか、口にだして云えないことがよくある。それは、私の気が小さいだけかもしれない。でも、人の話を聞いたり、誰かと話しているときに、「そんなこと云わなくていいのに」って感じることが多いからだと思うんだ。

少し気になることがあるだけ。

こと葉にできない部分が多くて、しゃべりたくないだけ。

それで、判って貰えなかったら厭だなって思うだけ。

実際は、学校でちょっと気になることを云

われただけなんだ。たいしたことじゃなくて、だけど話したら、変なふうに受け取られたりとか、話が大きくなっちゃったりとか、そういうのが厭なんだ。

　些細なことなんだ。

　おとうさんは云う「いじめって、問題視されてるけどさ。経験がないんだよね」

　学校問題のニュース。ああ、おかあさんの家でも、これ、流れてたな。

　おとうさんは云う「たまたま、運が善かったのかな」

　多かれ少なかれ、「いじめ」って云わなくても、そういう感じのものは沢山ある。好きな子は好きな子でかたまっちゃうし、外の子は受けつけない。雰囲気で、壁ができちゃったりして。雰囲気を守れない子は、また、どこにもはいり込めない雰囲気になっちゃって、「いじめ」って思ってなくっても、そんな感じになっちゃったりするんだ。

おとうさんは云う「ほら、話で、とかは聞いてるんだ。だけど実際の現場に、自分が巻き込まれない以前に、遭ったことがないんだよね」

それよりは、おとうさんが脳天気で気づかなかっただけじゃないかなって、頭によぎったけど、云わないでおこう。

それで、逆に思うんだ。いじめられてる方が気づかなければ、いじめじゃないんだって。だから、周りが「いじめるのは止めよう」だとか、あれこれ世話を焼くのも、どうなんだろう、って思う。

おとうさんは云う「運がよかったのか、悪かったのか」

それは、やっぱり運がよかったんじゃないかな。

でもさ、なん度も云ってるけど、私、別にいじめられてなんかないからね！

＊

＊　　＊

おとうさんは云う「いじめっ子の方がいいのかな？　いじめられっ子の方がいいのかな？……あとあと、大人になったとき」

女の人は現実的で、男の人は夢みがちだって、よく聞く。うん、そう思う。考えが跳ぶよね。

おとうさんは云う「経験として、どっちが、なんて云うか……人生の為になるのかな？」

判らない……だって、私に訊かれても、私、いじめられてないし。

おとうさんは云う「どっちかにしかなれないとしたら……どっちがいいかな？」

ずっといじめられて、大人になったらどんなだろう。暗い人になるかな？　私よりももっと気が小さくて、人になにも云えないで、びくびくしていて、誰にも相手されないような人になるかな？　卑屈だ……と思う。

ずっといじめて、大人になったらどうだろう。乱暴で、ずるくて、人の気持ちを考えられないような人になるかな？　我儘（わがまま）かもしれない……って思う。

おとうさんは云う「……いじめられっ子だな。うん、絶対」

判らない……どうして？

おとうさんは、正直いい大人だから、もういじめることも、いじめられることもないと思うけど、私だったら、どっちもダイレクトだから……どっちも怖いよ。

おとうさんは云う「いつか克服できたとしたら、いじめられていた子の方が、優しくなると思うんだ」

克服すれば、悪いことだったって気づけば、いじめっ子だって優しくなると思うけど。

おとうさんは云う「ずっと人に優しくなれると思うんだ。苦しさを体験した分、いじめていた子よりも」

急に、私を見詰めて、

おとうさんは云う「いじめっ子が改心したら、それは、人の上を行こうとしていたくらいだから、どんどん人を引っ張っていけるような強い大人になるかもしれない。ガキ大将ってか。でも。でも、それよりは……優しい子になって貰いたいな」

判らない……、私だったら……。

おとうさんは云う「眞琴」

どんなときでも「相手のことを思い遣りなさい」って、先生は云ってた。でも思うんだ。相手の考えてることって、どんなに判りやすい子でも、本当に考えてることなんて、エスパーじゃないと判らない。

おとうさんは云う「考えごとしてると、いつもそんな、険しい顔するな」

だから、相手のことを思い遣っている積もりでも、それは、自分の頭の中の相手に云わせてるだけなんだ。「自分がして欲しいことを

相手にしなさい」って云われても、私の嬉しいことが、本当に相手が嬉しいことか、判らないんだ。

どうやって伝えたら善いんだろう？

やっぱりこと葉が必要で、それなりの「云い方」で伝えるべきだと思う。今は下手でも、少しずつ、少しずつ、時間をかけて、こと葉を鍛えていくべきなんだ。

でも……なんだろう。どんなに頑張っても、こと葉だけじゃ、なにか足りない気がするんだ。

おとうさんは云う「くち、あいてるよ」

　たまたま、おとうさんが出掛けてるときに
電話がかかってきた。
　うん、いいよ、さっきはアリガト。明日。
じゃあ、持っていくよ……うん、

本書は、拙著『インタビュー』（2011年刊行）の
続編として書き下ろしたものです。

5日後…,

2012年12月31日　第1版印刷
2012年1月1日　第1版発行

★　★　★

著者　いかるが つみき
造本　知古 つとむ
発行　知古文庫

© Tsumiki Ikaruga 2012
Illustrations copylight © Chico Tsutomu 2012

★　★　★

『たられば の世界』
http://ameblo.jp/tarareba-world/

所有　版権

© Tsumiki Ikaruga 2012
http://ameblo.jp/tarareba-world/
Illustrations copylight © Chico Tsutomu 2012